速さ自まんの京急快特

京浜間をつっ走る 京急電鉄新聞

発行日 2020年8月21日
発行者 千葉市立[illegible]小学校 5年 鈴木崇弘

京浜急行電鉄（通称京急電鉄）は、神奈川県の横浜市に本社を置く鉄道事業や、バス事業などを行っている会社です。鉄道事業では、京急本線をはじめとする五路線があります。なかでも、京急線のゆう等種別エアポート快特「快特」では、京急線内の品川〜横浜間で、線内最高の120キロメートルで走ることがあります。また本線の京急川崎〜横浜間は10駅ありますが快特はすべて通過します。その区間ではへい行して走るJRの車両ともへい走したりすれちがったりします。今回は京急線で120キロメートル出せるヒミツと路線を走る車両について、しょう介します。

京急線を120キロメートルで走れるヒミツ

京急線内で、なぜ120キロメートルも出すことができるのでしょうか。答えは車両の走る線路にあります。京急線では、JR線などで使用しているレールはばが1067ミリメートルではなく1435ミリメートルのひょう準きょうきというレールはばの広いものを使っています。これは、新幹線と同じはばなので、安定して走行かつ速度を上げて運転することができるのです。また、京急では抑速信号というものを使っています。これは、一般の信号機とはちがい、青と黄色が点めつします。それによりふつうの青は、120キロで走行可能、青と黄色は120キロ化する前の最高速度の105キロで走れという意味になり、これで安全に高速走行ができるようになりました。

京急線の車両（引たいしたものもあるよ）

2100形（2101編成）
1998年〜
クロスシートでゆう等列車につくことが多い

1000形（1601編成）
アルミ車 2002年〜
1600番台 2016年〜
たくさんの仲間がいます。

600形（601編成）
1994年〜
8両はゆう等、4両はふ通 中心に運用

1500形（1501編成）
1985年〜
京急で今の最古参的な運用につきます。
ここまでげんえき車両

ここから、引たいした車両

800形 1978年〜2019年

旧1000形
1960年〜
2010年

2000形
1982年〜2018年

直通先の車両

京成3000形
京成の主力車両

北総7300形
北総の自社車両

都営5500形
浅草線の新型車両

京急線の自社車両、乗り入れ車両

京急線では、たくさんの車両が活やくしています。2100形はクロスシートで、快特や、座席指定のウィング号に使われます。1000形には、8・6・4両があり、初期のアルミ車とよばれる車両から19次車まで、たくさんのバリエーションがあり、広く運用に入ります。1500形も、1000形と同じく快特からふ通まで、いろいろな運用に入りますが、6両はありません。600形は都営線、京成線、北総線などに乗り入れます。また、京成や都営などの車両も、京急線に乗り入れています。このことを「相互直通運転」といいます。京急線内（主に品川〜京急蒲田間）では、いろいろな会社の車両を見ることができます。乗る前に車両又は、絵で当ててビンゴなどやっても面白いかもしれませんよ。

京急線を走った車両

京急線には今、たくさんの車両が走っていますが、過去にもたくさんの車両が走っていました。その中で今回は最後まで走っていた車両をしょう介します。800形は、2019年まで走っていました。引たい近くまでは、ふ通列車の運用で走り、京急最後の片とびら車でした。また、800形には、「だるま」という愛称がつけられていました。2000形は、2018年まで走っていました。この車両はもともと2とびらのゆう等用でしたが、2100形にその役目をゆずり、3とびら車になり、古い車両を置きかえました。800形と2000形は、と中でとそう変こうが行われましたが、どちらも1編成ずつ登場時の色にもどしました。旧1000形は、引たい後に一部の車両が香川県の高松琴平電気鉄道にじょうとされ、今なお走り続けている。

編集後記

ぼくは、この新聞を作り、京急線の高速走行のヒミツを知ることができました。ぼくが京急で好きなことは京急ファミリーフェスタというイベントです。ここでは京急の安全への工夫や、車両の展示などを行っています。みなさんもぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

出典：ウィキペディア、京急電鉄ホームページ、マイナビニュース